

空気が乾燥するこの時期は、喉の粘膜の防御機能が低下するため、インフルエンザにかかりやすくなります。インフルエンザは感染症なので、自分では注意していても家族や職場の同僚が感染すると広がるリスクが高まります。お医者さんには感染したときに診てもらいますが、日常生活で自分の感染予防だけでなく、家族や同僚が予防をしているかを観察し予防を促すことにより、リスクを低下できると考えられます。このように何事も状態や様子を適切に診て対策を行うことは重要です。

本号では、「軌道を診る」と題して、軌道の分野に着目して、レールなどの軌道を構成する個々の部材と軌道全体の2つの視

点で検査・診断技術を紹介しました。センシング技術、データ処理技術は多様化、高度化しており、これらを上手に活用した新たな診断技術を開発することで、鉄道の安全性・快適性の向上や軌道の維持・管理の低コスト化が期待できます。

来月号の特集は、「鉄道の地震対策と地震情報の活用」です。日本の鉄道では、地震に対する事前対応、緊急・即時対応、初動対応、復旧対応は重要な課題であり、ハード対策、ソフト対策などを組み合わせた多角的な地震対策や情報を活用したレジリエンスを向上する技術についての取り組みを紹介します。来月号をどうぞご期待ください。(Y. T.)

■2018年11月号の訂正とお詫び

RRR誌2018年11月号に誤植がございました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

頁	記事	箇所	誤	正
16	鉄道トンネル火災時の熱気流を予測する	図1	宮古線猿峠トンネルでの列車火災試験(1973年10月)	宮古線猿峠トンネルでの列車火災試験(1974年10月)